

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
中学校	由良町立由良中学校	吉村元
学校所在地		
〒 6 4 9 - 1 1 1 3 日高郡由良町大字阿戸 7 0 8 - 1 Tel 0 7 3 8 (6 5) 0 0 4 9 fax 0 7 3 7 (6 5) 0 9 7 8 e-mail yura-jh@yura.ed.jp		
担当者名	役職名・担当教科	
松村敦代	教諭・音楽	
<p>〔学校の概要〕</p> <p>由良町は紀州路のほぼ中央部、日高郡の北端に位置し、東に白馬連峰を背負い、西は紀伊水道に面し、その先端には石灰岩の奇岩が点在する白崎海岸がある。校区内には、万葉集にも詠まれている風光明媚な白崎海岸県立自然公園や開山以来 7 0 0 年あまりの伝統を持つ興国寺、平安時代初期（8 6 0 年）に建立されたと伝えられている衣奈八幡神社があり、一年を通して県内外から訪れる多くの観光客でにぎわっている。</p> <p>深く入り込む由良湾は、古くから天然の良港といわれ、現在も台風時などには避難のため停泊する船舶も多い。本校は、この由良湾の最も入り込んだ地にあり、旧紀伊防備隊跡を利用した広大な校地をもつ。</p> <p>平成 2 1 年 4 月に町内 3 中学校（衣奈・白崎・由良港）が統合し、本年度開校 1 4 年目の学校である。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 2 年生 3 6 名	4 名 職員 4 名	教室・世界遺産センター・熊野古道
実践研究テーマ		
「地域を創る ～想いを受け止め、願いを受け継ぐ～」		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	「地域に生きる」	
<p>〔キーワード〕 世界遺産学習 ふるさと学習 地域の課題 地域の未来</p>		
<p>〔単元目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの故郷和歌山について知ること、地域の課題や将来について考える力を育てる。 ふるさと和歌山の文化財を大切に、後世に受け継いでいく心と態度を育てる。 「紀伊山地の霊場と参詣道」に関する基本的な知識を身につけることで、郷土和歌山に対する理解を深める。 		
<p>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</p> <p>全体 8 時間（現地学習を除く）（「地域に生きる」 1 4 時間 ）</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 和歌山県世界遺産センターの職員の方に学校に来ていただき、世界遺産について講話していただいた。 三軒茶屋跡～熊野本宮大社までの熊野古道を、世界遺産マスターや世界遺産センターの職員の方に案内していただいた。 		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	事前学習	講師から世界遺産や紀伊山地の霊場について学び知識を深める	観察
2	・熊野古道フィールドワーク 現地学習 (三軒茶屋跡～熊野本宮大社)	世界遺産マスターや世界遺産センターの職員のガイドのもと、熊野古道を歩き、熊野の自然や古の人々の思いを感じ取る。	観察
3 4 5 6 7	・学習のまとめ(本校) 班ごとに壁新聞にまとめ、発表する。	写真などを使い、視覚的に分かりやすく、興味を引くことができる壁新聞にする。 世界遺産の良さ・魅力が伝わる壁新聞を作り、後世に伝える意識を持たせる。	観察 壁新聞 発表
〔单元学習の成果と課題〕			
○成果 和歌山県に住んでいながら和歌山のことについての知識があまりない生徒も多かったが、本学習を行うことで和歌山県について興味を持つ生徒が増えた。また、本事業における事前学習や現地学習を行うことで、世界遺産についての知識や、古の人の思い、この遺産を後世に伝えていこうとする思いを持つことができた。			
○課題 本単元での学習でまとめたものを学年で発表することはできたが、全校発表や校外に向けて発信する機会(時間)を持つことができなかった。世界遺産学習の実施時期も課題の1つだと考えている。			
〔世界遺産学習の効果〕			
世界遺産については社会科の学習の中で取り扱ってはいるが、実際に生徒自らの足で熊野古道を歩くことで、世界遺産が身近なものとして認識することができた。また、和歌山にある世界遺産について興味を持ち、『行ってみたい』『歩いてみたい』という思いを持つことができた。今まで知らなかった和歌山の魅力について知ることができ、自然や歴史的な文化財を守り、後世に伝えようとする思いを持つきっかけになった。また、和歌山県の文化財について興味を持ち、文化財の良さや歴史を分かりやすく伝えようとする意識を持つことにつながった。			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
学習時間や予算の関係から、本校独自で熊野を訪問することは難しい。身近な所に熊野古道(紀伊路)があるので、そこに焦点を当て、世界遺産である中辺路や熊野三山、高野山の学習につなげていくことが必要だと考える。世界遺産の保全などに携わる人からお話を聞いたり和歌山の文化財について調べたりする学習を行い、まとめることで、和歌山県の世界遺産や文化財に興味を持たせ、世界遺産や文化財の保全や後世に伝えていく態度を養っていきたい。			

様式 2

令和4年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

紀伊山地の霊場と参詣道に加え、6班で1つずつテーマ【熊野本宮大社・御朱印・八咫鳥・道普請・大斎原・那智大社】を決め、資料やインターネットを活用し調べた内容を壁新聞にまとめた。



できあがった壁新聞を活用し、学年発表を行った。その際、相互評価表をつけ一番良い新聞、発表の投票を行った。



できあがった壁新聞は校舎内に掲示し、他学年にも本学習について知ってもらう機会とした。

